



# 深田貴美子 《いっぽいっぽ通信》



## 100年先の 武蔵野のために

「便利で安心なあたりまえの毎日」が、これほど脆いものかと痛感した一年でした。内憂外患一今、この国の未来に、見識と責任ある行動が求められています。市政は、私たちの生活に一番近い「最後の拠り所」です。これからの自治体経営は、「明確な将来ビジョン」と「バックキャストに基づく実行性ある計画」を立てること。100年先の武蔵野と子どもたちのために、今期も全速力で走り続けます。

### 9月議会より

### 12月議会より

## なにがなんでもYディを回避せよ!

## あなたも私も武蔵野スマート計画!

### 13,000㎡の未利用地・低利用地を 「時価評価」せよ。

バブル期にも  
購入した

武蔵野市は、東京ドームグラウンド約一個分の未利用地・低利用地をいつまでも「取得価格」で計上しています。例えば、三鷹駅北口中町駐輪場(約4,000㎡)周辺等は、総額91億円で、平成元年と4年に土地開発公社より取得。オリンパスの有価証券虚偽記載を反面教師とし、まずは資産の再評価を行い、[含み損]を明確に把握すべきです。

### 結論

PRE(自治体不動産の有効活用)に取り組むならば、まずは土地の評価を行い、年次財務諸表に反映する作業が必要です。

### BCP二の矢・三の矢は、日頃の供給管理から。

3・11の教訓から、民間企業では事業継続を「単なる安否確認と業務復興」だけではなく、「供給網の多様化・複層化」=サプライチェーンに注目を始めました。日頃の業務提携も、複数の事業者と連携すれば、災害時にも途切れない事業継続と供給を可能とします。今震災では、市役所まるごと失われる自治体もありました。被災証明発行業務の迅速化を図るためにも、情報管理の保全も重要な課題です。

### 結論

- 災害時に、「市民の生命と財産を守る」目的を掲げ、
- ①日頃の業務連携の多様化・複層化の見直しを図ること。
  - ②ICTで管理する個人情報、クラウド化も早急に検討すること。
  - ③サプライチェーンの視点を踏まえて、大至急「BCP=事業継続計画」を策定すること。

### サステナブル(持続可能)+レジリエント(しなやかで強い) →スマートなまち(コミュニティ)を創る!!!

これまで、環境負荷低減、自然エネルギーの利活用は、「あればいいぞ!ベスト10」でしたが、3・11以降は「なければ困るぞ!ベスト10」となりました。武蔵野市でも、今後の省エネ・節エネ型の環境負荷の無いまちづくりには、電力消費のマネジメントが鍵です。再開発するビル・マンション・公共施設・戸建には、ICTを活用したスマートメーターや蓄電池を設置。ゴミ焼却熱・水素・風力・バイオガス・太陽光の蓄電(リチウムイオン電池)による電力供給、EVおよびハイブリッドカーの普及など、ライフスタイルの転換も必要です。

### 結論

市内で唯一発電機能を持つ「新クリーンセンター」周辺まちづくりは、災害に強い「スマートコミュニティ」を計画に加味せよ。



### 武蔵野市内のTPP—緑も!農地も!屋敷林も!

市内33.14haの農地と、けやき・しらかし・いちょうなどの屋敷林は、ずっと武蔵野の変遷を見守り、私たちの「おいしい地下水」の涵養にも大きく貢献してきました。ほぼ100%が生産緑地に指定されており、平成34年は営農継続の見直し時期。市内80戸の都市農業経営の支援推進は、食の安全・TPPの動向等ローカルにもグローバルにも、食糧問題は極めて深刻・密接な課題です。スマートシティは、エネルギーの効率化やライフラインの再整備だけではなく、「景観(ランドシャフト)」=五感+心が「きもちーい!」と感じる都市デザインが重要です。

### 結論

高齢化・相続による農地の宅地化に備え、東京都の「農の風景育成制度」による農地保全や「クラインガルテン=市民農園」的な営農に関心のある事業者と市民との協働を、市が支援検討せよ。

### ペットを守りたい!協定締結完了!!(平成23年11月4日締結)



三鷹市は、武蔵野三鷹獣医師会と災害協定を締結しておりましたが、武蔵野市は「同行避難の場所」が決まらず、協定締結に至っておりませんでした。災害時に市外から調達する薬剤も、「協定ライセンス」がなければ国の指定する第一次緊急指定道路使用も許可されません。サプライチェーンの観点から、緊急に協定を結ぶことを求め、3年越しで実現しました。よかったわんにゃん。

ご意見、ご要望を聞かせてください!

メール ☒ [ippo-ippo@fukakimi.net](mailto:ippo-ippo@fukakimi.net)  
または電話 090-8025-4457まで

# 2011年・2012年……Xデー……Yデー……Zデー!

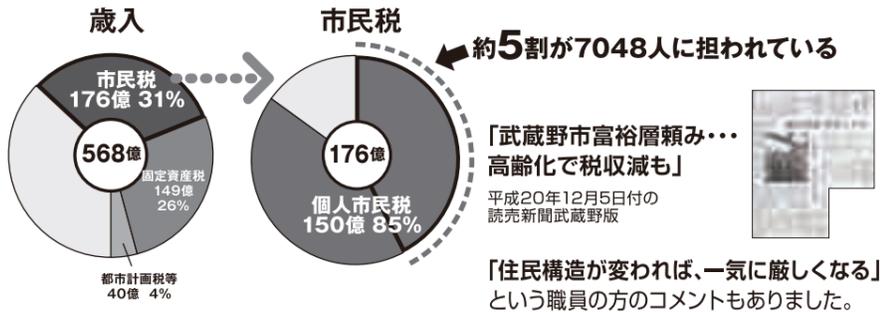
ムサシノハ、ケツシテ「お金持ち」デハアリマセン。

## 個人市民税の約5割

納税義務者の1割=7,048人

(平成23年度納税義務者総数71,350人)

(課税標準額700万~1000万円未満4.7%  
+1000万円以上5.2%)



## 固定費でぱっつんぱっつん!

経常収支とは、毎年度使われている固定費的なもの。人件費+扶助費(住民福祉等)等です。経常収支比率とは、財政構造の「弾力性」を示すもの。比率が低いほど、様々な事業に取り組む余裕があることを示します。市町村では、75%を上回らないことが良いとされています。

武蔵野市の経常収支比率

平成17年度	79.0%
平成18年度	75.9%
平成19年度	86.4%
平成20年度	87.1%
平成21年度	86.4%
平成22年度	88.6%

### 視察の現場 経常収支比率95.3%—財政難に陥っている目黒区

目黒区は、平成9年から平成13年の間に、都立大学跡地83億円を含む総額522億円を起債。240億円の新区庁舎および約80億円の東山地区の省庁跡地を購入し、公債費比率は常時11%~14%の間を推移しています。現在、経常収支比率は95.3%、虎の子の財政調整基金は46億円で、平成25年26年度には総額112億円の赤字が予想されています。そのために、今事業総額約180億円の削減に取り組んでいます。

## 297億円の基金は、虎の子!

経常収支比率が高まってきた以上、まさかの時に備える基金は虎の子です。平成7年1月17日阪神淡路大震災で被災した「芦屋市」は、数年で216億円あった基金が底をつく見込みとなり、「財政非常事態宣言」のもと行革に取り組みました。いま現在も、財政力指数は、0.94。職員・特別職(議員含む)の給与・報酬は10%~20%の減額が続いています。

### 視察の現場 芦屋市の被災と財政再建

復興に要した経費は、総額約2,500億円(標準財政規模の11倍)。復興のための市債は、約911億円。今年で、まる17年。当時の北村市長は、「立ち直りに20年以上かかる」と述べています。日頃、「基金の取り崩し」を訴える政党がありますが、「想定外・未曾有の危機管理欠如」の無責任な発言と言えます。

## 約1600億円 都市基盤整備費

平成24年~43年までの20年間に、約1600億円の大型投資が見込まれています。武蔵野市でもついに「PRE(自治体不動産の有効活用)」を、行財政改革基本施策として「第5期長期計画」に記すことができました(祝)。その基礎データとなるのが、昨年8月に策定された『公共施設白書』です。

3駅周辺の都市基盤整備	110億円
道路整備	250億円
下水道整備	410億円
新クリーンセンター	80億円
市立中学校、保育園等の建替え、保全、維持修繕等費用	750億円
計	1,600億円

公共施設白書ダウンロードアドレス  
[http://www.city.musashino.lg.jp/dbps\\_data/\\_material/\\_files/000/000/008/832/shisetsuhakusyo.pdf](http://www.city.musashino.lg.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/008/832/shisetsuhakusyo.pdf)

## 結論

みなさまからお預かりした貴重な税金を、今後も持続可能な武蔵野市を子孫孫にまで受け伝えるために、市が今しなければならぬことは、右のとおり。

①「システム思考」の全体最適へ  
「量から質へ」の行財政改革と、「部分最適」というパーツ主義から、「システム思考」の全体最適へと考え方をシフトすること。

②「バックキャスト」ビジョンの明確化  
武蔵野市の将来ビジョンについて、何年先に何を實現するかを明確に設定し、そのために、今どんな手段をとるべきかを考えること。「とりあえず、今これをやっておく」というのが、一番だめです。

## 都税と市税ってどうなっているの?

あなたの都民税は、ずばりッ!おいくら?  
均等割1000円+年間所得額の4%  
=あなたの都民納税額

平成22年度は、市全体で都に約100億円納付し、都から「約43億円」が武蔵野市に支出されました。  
内訳:  
負担金14億400万円(法律・条令・要綱に基づく都が負担すべきお金 例:生活保護費)  
補助金24億1500万円(都と市が連携できる事業への助成)  
委託金4億7千万円(徴収手数料、選挙、国勢調査)  
もちろん、上記以外にも、都立公園、都営住宅、都道等には、広く都民の便益のために、都より事業費が投入されています。

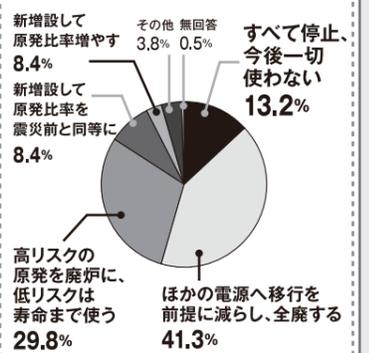
なんとかしようよ!  
水道整備の一元化っ!

3・11震災後、東京都は『2020年の東京への実行プログラム2012』で、「浄水場等への自家発電設備等の設置推進等」に3か年で**1304億円**を事業予算計上しています。  
武蔵野市は東京都と整備を一元化していないため、自家発電設備費用も**自腹**で行わなければなりません。  
一番の心配は、本管耐震率は、たったの**2.9%**。震度5強の地震に対し、消火栓を含む各所の破損も心配です。

## プロメテウスの灯

あきらかに「人災」。安全神話は崩れました。危機管理意識の欠如です。原発は、自ら発電した電気で稼働しているため、電源を失うことが致命傷になります。3月12日未明に電源車を使った作業が行われましたが、車と発電所をつなぐ配線用の接続ソケットは、日本製ではありませんでした。危機管理意識の欠如と言わざるをえません。人知を超えたエネルギーを責任もってコントロールできない以上、国民を巻き添えにするリスクは避けなければなりません。とはいえ、明日すぐに廃炉にすることもできない以上、過度に原子力に依存せず、自然エネルギー・再生可能エネルギーを活用した省エネルギー型社会を、まだ見ぬ人たちのために一日も早く創り上げていかなければならないと思います。

### 原子力をどのように使うべきか



## 355年前の「約束の場所」 「(仮称)吉祥寺の杜公園」誕生!

五日市街道と宮本小路の接点、東町1丁目に1720m<sup>2</sup>の緑地が誕生します。



1657年明暦の大火をきっかけに、「夢」を持って移り住んだ人々がこの吉祥寺を拓きました。  
本宿小学校の生徒は、社会科見学で当時の「囲炉裏」や「調度」を見学、「べえべえ言葉」の伝承民話を学ばせていただきました。  
宮崎さんは、武蔵野市の歴史編纂にも多大なご尽力をいただきました。  
25mを越える百合の木(チューリップの木)、枝垂桜、竹藪も残されます。  
防災の拠点、人と人との出会いの場、地域のシンボル—「約束の場所」として、大切にしたいと思います。  
Music by chemistry



## 最後のジャンは茜色。どうするんだ!競輪競艇!

本市では、教育施設整備費等に充てる一般財源の不足額を補うために、公営競技=競輪・競艇を行い、その収益金を一般会計に繰り入れてきました。  
11月16日の組合議会で配布された「平成22年度東京都十一市競輪事業組合一般会計歳入歳出決算審査意見書」では、東日本大震災の影響により、開催数が少なかった原因もあるが、そもそもギャンブル人口の減少、新規ファン獲得の失敗、ファンの著しい高齢化といったマーケティングの失敗もあり、経営悪化はまぬがれない状況です。今期の配当金は、組合基金を取り崩しての1,000万円でした。



## 中学「こぶし」通級、第2中学校に移設完了!

長い間、情緒通級「こぶし」は、廃校になった桜堤小学校に設置され、飲料可能な水道管は1本、耐震も十分ではありませんでした。3年越しの予算要望の末、ようやく平成22年度に移設を完了しました! 中学生も地域の方々も温かく見守ってくださっているという校長先生のお話もうかがうことができました。

## 「むさしの未来」は、「ダイバーシティ・マネジメント」(多様性ある組織)!!

メンバー紹介	
代表 小美濃 安弘	西園寺 みきこ
幹事長 深田 貴美子	前田 秀樹

### 1. 予算要望

市内組織・団体の方々にご要望をおきかせいただき、平成24年度会派予算要望(予算要望+市政への提案・提言229項目)を提出しました。

### 2. 会派報告会

11月7日(月)@西部コミセン、8日(火)@境南コミセンにて開催いたしました。たくさんのご参加、ありがとうございました。

### 3. 議会改革奮闘中!

会派を代表して、前田秀樹議員、西園寺みきこ議員が議会改革検討委員会に参加。行財政改革の一貫として、議会の在り方も見直されるべきです。